

野江内代駅

Osaka Metro まちさんぽ

60分 コース

のえうちんだい
谷町線 野江内代駅

水の神を祀る野江水神社

世阿弥と競った猿楽一座が栄えていました

ここには現在の能楽の原型となった猿楽の一座・榎並猿楽がありました。猿楽は、奈良時代に物まね芸から発展し、やがて寺社の祭礼で演じられて芸能として様式が整っていきました。鎌倉時代末に榎並猿楽の一座が隆盛して、世阿弥が演じた大和猿楽と並び競い合うようになりました。



スタート駅	約 60 分							ゴール駅
谷町線 野江内代駅 ①号出口	1	2	3	4	5	6	7	谷町線 野江内代駅
	野江・内代	野江水神社	榎並猿楽発祥の地	来迎寺	榎並講の祠	京街道 榎並地蔵	児童遊園 榎並川跡	

かつてこの地の榎並村は淀川の南という江南から生じたという説があるほど、淀川の水に影響された土地です。古来、氾濫を繰り返してきた淀川は、肥沃な耕作地をつくりだす一方で頻繁な水害をもたらしてきました。室町時代、ここに三好政長が榎並城を築いたときも、城内に水の神を祀って水難から城を護ろうとしました。

世阿弥と競った猿楽一座が栄えていました

ここには現在の能楽の原型となった猿楽の一座・榎並猿楽がありました。猿楽は、奈良時代に物まね芸から発展し、やがて寺社の祭りで演じられて芸能として様式が整っていきました。鎌倉時代末に榎並猿楽の一座が隆盛して、世阿弥が演じた大和猿楽と並び競い合うようになりました。

スタート駅

約 60 分

ゴール駅

谷町線野江内代駅①号出口

谷町線野江内代駅

1 野江・内代

ともに淀川左岸の湿地帯に広がった旧榎並荘にあった村の名前で、野江は「野原の岸」をあらわして、このあたりの地形をうまく表現しています。内代は、江戸時代初期、このあたりは徳川幕府の直轄地で代官が置かれて、「代官の領地の内」が内代になったのでしょう。

2 野江水神社・水流地蔵尊

天文2年(1533)、三好政長が榎並城築城の際、この地に頻発する水害から守護されようと城内に小さな祠を造営したのが始まりとされています。秀吉も大坂城築城にあたって水火除難の守護神として篤く崇敬して、社殿を修築しました。祭神は「水波女大神」で、『古事記』や『日本書紀』にも記されている水の女神です。元禄16年(1702)の大雨による大洪水に村人が救済を求めると雨が止んで水が退いたと伝えられています。明治21年(1888)に現在の社殿に再建されましたが、いまに至るまで社殿のある位置は政長のときから変わっていません。明治18年(1885)の淀川の大洪水で、このあたりは3か月も水に浸かりましたが、そのときに漂着した水流地蔵尊が鳥居の横に祀られています。



3 榎並猿楽発祥の地・榎並城跡伝承地碑

榎並猿楽は、鎌倉時代末期に丹波猿楽の新派としてこのあたりに一座を構えて隆盛し、住吉大社の御田植神事に奉納する特権を得ていました。猿楽は全国にいくつもの座が形成されましたが、大和猿楽と榎並猿楽が主流を競いあい、榎並猿楽の役者と大和猿楽の世阿弥が将軍・足利義満の前で『翁』を競演したということが『申楽談義』に書かれています。しかし、やがて榎並の地が応仁の乱に巻き込まれたことで衰退して消滅しました。室町時代の天文2年(1533)に三好政長が築いた榎並城は、淀川、旧大和川などの河川を天然の外堀とする堅城で、小規模な城ながらも東成郡随一の要塞といわれていましたが、天文17年(1548)三好長慶の攻撃で陥落しました。現在は、政長が水火除難のために城内に建てたといわれる野江水神社が姿をとどめています。榎並猿楽発祥および榎並城跡伝承地の碑が榎並小学校東門前にあります。



4 来迎寺

真宗大谷派の寺院で、境内に慶安5年(1652)の年号のある手水鉢があります。明治9年(1876)に榎並小学校が創立される以前は、住職が村の子供たちに読み書き・そろばんを教えていたと伝わっています。現在の本堂や大門は戦前の建築ですが、戦災を免れ、本堂には見事な欄間や柱が残されています。



5 榎並講の祠

昭和の初期、このあたりで大峰山信仰が流行し、男子は13歳になると成人への通過儀礼として1泊2日で厳しい大峰修行を体験しました。大峰山は熊野から吉野に至る日本三大修験道のひとつで、その信仰者の集まりである榎並講の祠が昭和8年(1933)に建てられ、険しいお顔の不動明王と役行者ですが、現在でも近隣の方々に手厚くお祀りされています。



6 榎並地蔵・京街道

地蔵尊の前の道は京街道で、野江村を南北に流れる榎並川に沿ってありました。地蔵尊は当初榎並川に架かっていた橋のもとに祀られていたといわれています。地蔵堂内に「者し向 可も 今ふく」(橋を右へ、蒲生・今福)と刻まれた江戸時代の道しるべが発見されました。



7 榎並川跡・児童遊園

榎並川は淀川から流れを受けて野江村で京街道沿いに南へ、現在の京橋駅近くの鯉江川に注いでいました。三枚板舟と呼ばれる田舟が農作物や肥料の運搬に使われていた農村用水の川で、城東区・都島区の区境になりました。昭和40年(1965)頃から埋め立てが始まり、跡地は800mに連なる細長い児童遊園として姿をとどめています。



文中の「おおさか」表記には、一般呼称や明治以降については「大阪」、江戸時代以前については「大坂」を使っています。なお、掲載している情報は2024年3月時点のものです。内容は変更されている場合があります。

発行：Osaka Metro

協力：一般社団法人大阪あそ歩委員会 (お問い合わせ先)大阪あそ歩 info@osaka-asobo.jp

後援：歴史街道推進協議会

このコースや他のコースの〈ガイド付きまち歩き〉については、下記の「大阪あそ歩」のホームページをご覧ください。

<https://www.osaka-asobo.jp> または で検索

ご注意

※まち歩きには歩きやすい服装で、足下や車などの往来に十分注意し、事故のないように各自で責任をもって行動してください。

※プライバシーにかかわる場所での写真撮影や大声での談笑はご遠慮ください。住宅敷地内での写真撮影は厳禁です。

ご案内

※駅スタンプは駅長室付近に設置しています。参加記念にぜひ押印してください。

駅スタンプ押印欄



毎月第1金曜日発行